

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第19回 厚き見栄をはれ！

どうせ見栄をはるなら分厚い見栄をはれ！

誰でも嫌がる仕事は自分がやれ。
手柄は従業員へ与えなさい。
従業員の自慢話は、経営者の大いなる見栄である。

人のために奉仕して、決して恩に着せないこと。
何の見返りも求めず、社会や世のために働くことは、
経済人としての大いなる見栄である。

決して出過ぎず、決して陰に隠れるな。
自分の存在感を人に意識させることは、
社会人としての大いなる見栄である。

やみくもに夢中になり、熱い思いを持ち続ける。
男のロマンとしての大いなる見栄である。

威厳を持ち、力を持ち、そして、思いっきりの愛情を持つことは、
父親としての大いなる見栄である。

どうせ見栄をはるならば、そんな、分厚い見栄を張れ！

飯島賢二著 「故飯島岱蔵回想記」 平成2年8月刊より

新年明けましておめでとうございます。
稚拙で、しかも身勝手な「コラム」を、辛抱強く読んで頂き、誠にありがとうございます。
今年も懲りずに、こんなリズムで連載を続ける予定です。よろしくお願いいたします。